

12 月度木曜例会 (2018 年 12 月 6 日) 於・茨木市福祉文化会館

# “Disaster Risk Reduction”

## 災害時でのリスク軽減について

ムハマド ヘルミ ビン アブドラ  
Mr. Mohd Hermy bin Abdullah (Malaysia)

今回のゲスト・スピーカーはマレーシア人のムハマド ヘルミさん。立命館大学大学院で政策科学を専攻中で、地域における地震災害のリスクをいかに軽減するかを研究中。被害を小さくするために仮想世界で体験学習する Gaming Simulation を提案しています。マレーシアは長年、多くの日本人にとって永住したい国のナンバー1 の国。その多様な自然や文化などについての魅力も前半で語っていただきました。以下は要約です。

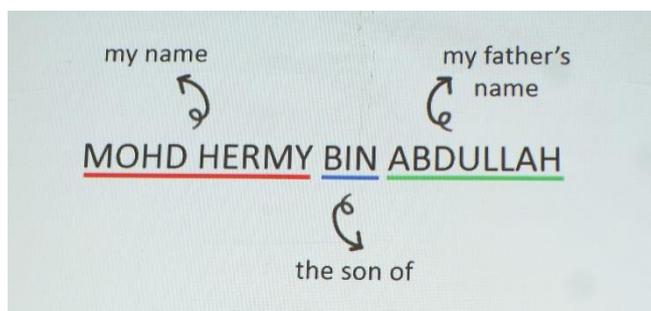


### I Myself (自己紹介)

最初に、マレーシアを紹介した短い観光ビデオの上映。テングザルなど熱帯の多様な動植物が息息するジャングルや海、近代的な高層ビルなど魅力あふれる映像の後、Without knowing, there' ll be no love という言葉が。マレーシア人がよく言う言葉で、『知らなければ、愛は生まれない』という意味だそうです。

参加者からまず、Mohd Hermy bin Abdullah という名前についての質問がありました。苗字と名前だけの日本式表示と違って、イスラム圏の人たちの名前はどれが氏名か名前かわかりにくいので。

ヘルミさんの説明によると Mohd Hermy が彼の名前で、bin は息子という意味（娘の場合は binti）、Abdullah は父親の名前。そして Mohd は Mohammad の略ということです。日本の友人たちから「ハロー、ミスター ビン」とか「ハイ、ミスター アブドラ」と声をかけられることがあ



る、とヘルミさんは笑っていました。ちなみに、ヘルミさんは日本が大好きで自分の3人の子供に日本人と同じ発音の名前をつけています。

マレーシア(赤い部分)



## II My country

マレーシアは面積約 33 万平米、人口は同 3,200 万人。首都はクアラルンプール。多民族国家でマレー系、中国系、インド系が主流。宗教はイスラム教徒が 60% と最も多い。しかし、小さな問題はあるが、互いに宗教、文化の違いを認め、尊敬し合ってハッピーに暮らしている。

ある調査によると、マレーシアは日本人に人気が高く長年、long stay（移住又は長期滞在）したい国のトップの位置にある（2006 年から 2017 年）。日本のシンガーソングライターで俳優のガクト（GACKT）は 5 年前にこの国に移住しており、彼に言わせれば「食べ物が最もおいしい国はマレーシア」。

物価は日本のほぼ、3分の1。庶民の朝食であるロティチャナイは約 30 円、屋台の焼き鳥は1本 20 円くらいで食べられる。

熱帯に位置するけれど最高気温は 29-34℃。最低気温は 22-25℃と過ごしやすい。ほぼ毎日のスコールが天然クーラーの役割を果たすようで、年中、同じ半そでシャツで過ごせる。英語はマレー語に次ぐ第二言語になっており、すべてのマレー人が理解できる。

安い物価、おいしい食べ物を絶賛するガクトさん



## III MY research

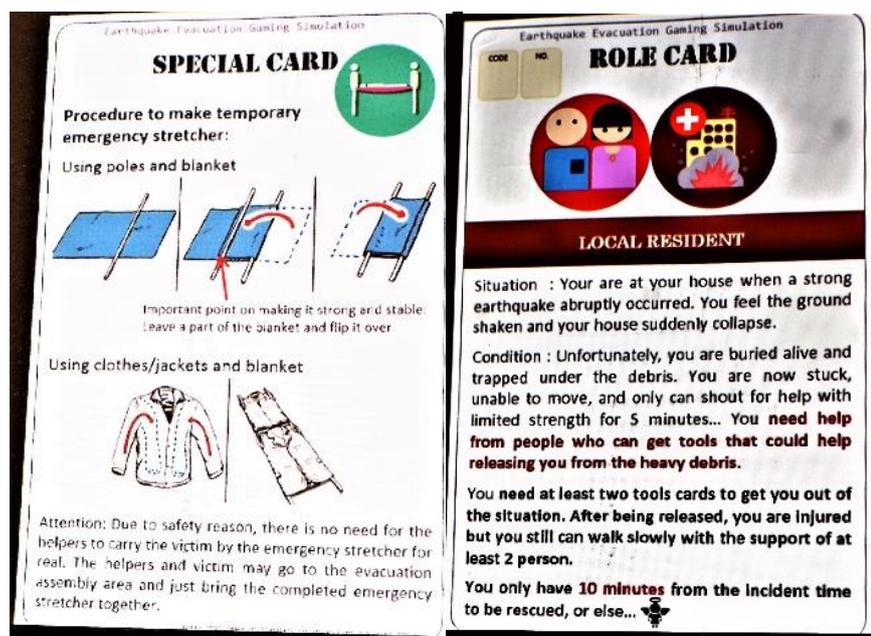
新潟の長岡技術科学大学で機械創造工学を学んだが、その後、方向転換し、現



個人的に学び合うことが大切と思った。

講義を聞くだけでは、いざという時の対応能力は育たない。そこで、ともに実際に即した教育のなかで学ぶ必要があるとして Gaming Simulation を提案しています。

避難ができない、他のプレイヤーによる救助・応急処置が必要、火災が発生している、通行不能の通路があるなど、実際に起きる様々な事態を想定する。そこから、単純化したモデルを作り、プレイヤーの役割を定め、ルールを決めて実施す



る。その結果から予測との違い、見直し、リスクの発見をする。

こうして、地域ぐるみで知識、技術、動機付けを維持し、本番に備えた対応能力を高める努力を続けることが、重要としています。また、理解しやすいように、布と棒、上着を使った即席の担架作りの方法を説明したカードなど様々な説明をカードで示す＝写真上＝方法などを提案していました。



6月に大阪北部で、最大震度6弱の地震があったばかりだけに、出席者から質問やコメントが相次ぎましたが、ヘルミさんは一つ一つ丁寧に応答しておられました。

以上